

⑤ 成人期Ⅲ(45～64歳)

課題の分類:

マインド

フィールド

スキル

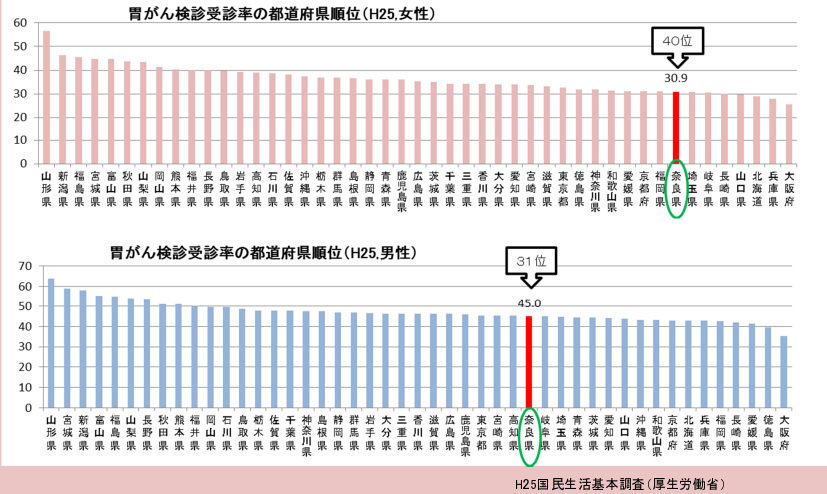
ライフ

区分		統計調査結果等からみた奈良県の現状	課題	必要な施策(案)
生活	更年期の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 50歳代で女性の更年期障害の患者数が多い(50歳代の患者が全体の51.4%)(※)</li> <li>○ 乳がん検診の受診率が低い(39.4%全国40位)</li> <li>○ がん検診の受診率が男性に比べて低く、特に胃がん検診は男性(45.0%、全国31位)に比べて女性(30.9%、全国40位)は低い 参考資料⑤-1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更年期障害等の<b>女性特有の健康上の問題が発生</b></li> <li>・乳がん等検診受診率が低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆更年期障害等女性の健康への支援</li> <li>◆がん検診受診率の向上支援</li> </ul> <p>更年期障害や乳がんなど、女性特有の疾病の予防や早期発見に重点を置き、女性の健康の保持増進をはかり、健やかな高齢期につなげる。</p>
	介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>主な介護者は女性が多い(63.6%)</b></li> <li>○ 女性が社会で活躍するためには「介護サービスの充実」への希望が多い(48.9%)</li> <li>○ 要介護2から5の高齢者数に対する施設・住居系サービスの利用者数の割合は全国平均を下回る</li> <li>○ 女性が介護で困っていることは、「自分自身のための時間が持てない」(27.2%)「<b>自分自身も高齢となり、介護が困難</b>」(26.1%)「気持ちや体を休める機会がない」(25.2%)が多い 参考資料⑤-2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護は女性がするものという意識が強い</li> <li>希望に応じた介護サービス環境が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆固定的性別役割分担意識の払拭</li> <li>男性の介護への参画が促進されるよう啓発を行う。</li> <li>◆<b>介護家庭への多様な支援</b></li> <li>介護離職の防止に向け、介護休業制度や柔軟な働き方の周知や、介護休業取得時の経済的負担の在り方など、必要な対応を検討する。</li> </ul>
仕事	継続者の再就職	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 介護・看護を理由に離職する女性が多い(全国で約12万人)(※) 参考資料⑤-3</li> <li>○ 女性が働いていない理由は<b>50歳代では「親や家族の介護・看護」が多い(28.6%)</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>介護と仕事を両立できる、働きやすい職場への環境整備が不十分</b></li> <li>・女性が時期・内容など希望に応じて再就職できる仕事が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆柔軟な働き方の推進及び再就職への支援</li> </ul> <p>女性の希望・能力を活かした就業継続や、多様な再就職等への支援を行う。</p>
	女性の参画・登用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「女性を積極的に企業の管理職、団体の役職者などに登用すべきだ」という考え方に対する賛成意見が少ない(63.4%、全国43位) 参考資料⑤-4</li> <li>○ 管理職に占める女性割合が低い(13.4%、全国32位)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導的立場につくのは男性という意識が強い</li> <li>・女性の活躍の「見える化」が不十分</li> <li>・女性管理職・ロールモデルとなる人材が少ない</li> <li>・政策形成・意思形成の場への<b>女性の参画率が低い</b></li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">◆委員意見「長時間労働を前提としない、時間あたりの成果(効率性)をみる評価が重要</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">◆委員意見「男性の働く環境が悪いために、男性の管理職を見て、「あれほど苦勞するなら管理職になりたくない」と思う女性の声を聞く」</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆女性の参画・登用にに向けた意識改革</li> <li>管理職を含めた企業のトップを中心に、女性の参画・登用の必要性について啓発を行う。</li> <li>◆女性の活躍の「見える化」</li> <li>事業主行動計画等により、女性の管理職比率など、企業等の取り組みを「見える化」し、女性の活躍を推進する。</li> <li>◆女性管理職・ロールモデルとなる人材の登用</li> <li>女性管理職・ロールモデルとなる人材の登用を推進する。</li> <li>◆政策形成・意思形成の場への女性の参画</li> <li>指導的立場への女性の参画を拡大する。</li> </ul>
	農林水産業における女性の参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農林業就業者のうち女性割合は4割であるが、そのうち自営業主の女性割合は12.0%と低く、家族労働者の女性割合は81.3%と高い(※)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農林業では女性は家族従業者である割合が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆農林水産業における経営への女性の参画</li> <li>農業における家族経営協定の推進等により女性の参画を推進する。</li> </ul>

※: 全国の場合

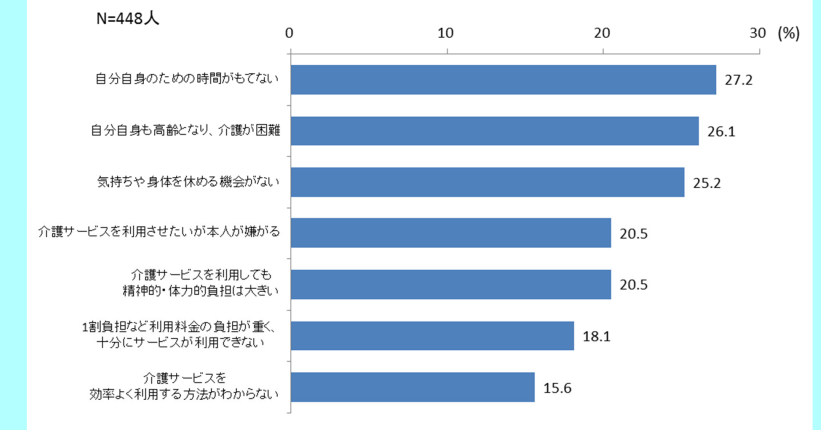
⑤-1 胃がん検診受診率

○胃がん検診の受診率が、女性(30.9%、全国40位)は、男性(45.0%、全国31位)に比べて低い。



⑤-2 女性が介護で困っていること

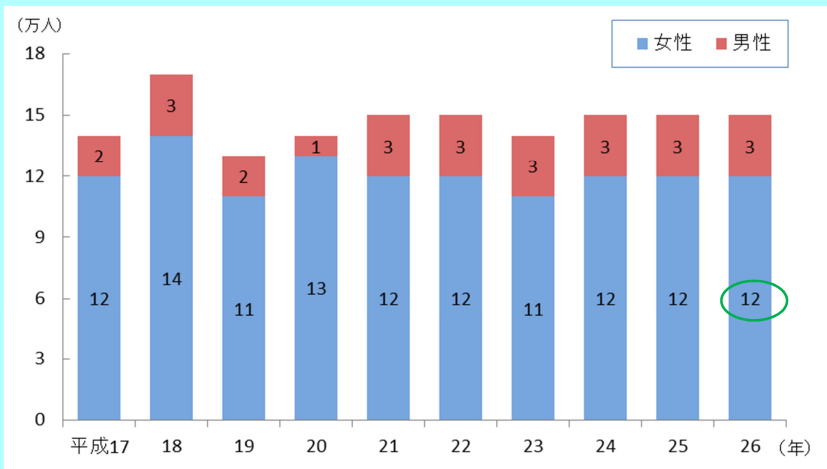
○女性が介護で困っていることは、「自分自身のための時間がもてない」が27.2%と最も多く、次いで「自分自身も高齢となり、介護が困難」26.1%、「気持ちや身体を休める機会がない」25.2%。



※複数回答、上位7項目  
H25高齢者の生活・介護等に関する県民調査(長寿社会課)

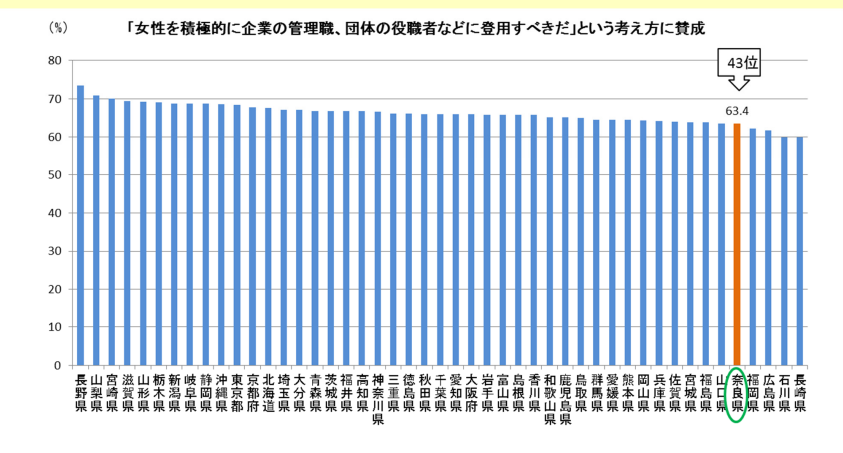
⑤-3 介護・看護を理由とした離職者数の推移

○非就業者のうち介護・看護を理由とした離職者数は女性が全国で12万人と多い。



⑤-4 女性の積極的な登用についての意見

○「女性を積極的に企業の管理職、団体の役職者などに登用すべきだ」という考え方に対する賛成意見が少ない(63.4%、全国43位)



⑥ 高齢期(65歳～)

課題の分類:

マインド

フィールド

スキル

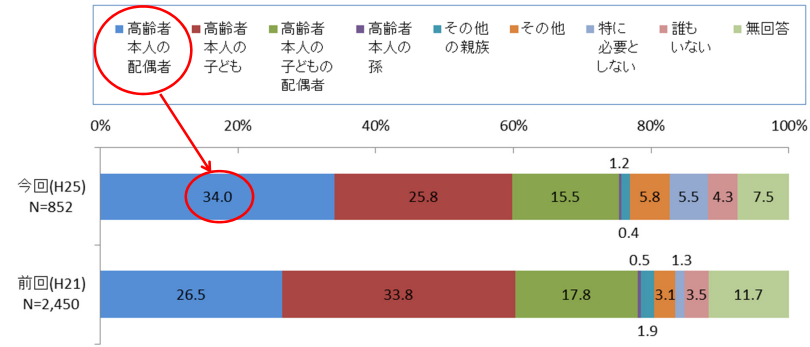
ライフ

区分		統計調査結果等からみた奈良県の現状	課題	必要な施策(案)
生活	の高健康期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 女性の健康寿命(65歳平均自立期間)は全国41位である(20.26年)</li> <li>○ 女性割合が高い疾病は、骨粗しょう症(95%)、関節リウマチ(79%)、アルツハイマー病(72%)等(※)</li> </ul>	健康寿命の全国順位が低い	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆健康寿命を延ばすための取り組みの推進</li> <li>介護予防に役立つ健康づくりや、高齢者の生きがいづくりなど、「健康寿命日本一」をめざした取り組みを推進する。</li> </ul>
	の高虐待期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家族や親族による高齢者虐待について、被害者の77.4%が女性である</li> </ul>	高齢者虐待の被害者の女性割合が高い	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆高齢者が安心して暮らせる環境の整備</li> <li>高齢者虐待の早期発見に向けた啓発を進めるとともに、虐待事例の多い要介護や認知症を予防する。</li> </ul>
	老老介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主な介護者は「高齢者本人の配偶者」(34.0%)が最も多く、老老介護が増加している 参考資料⑥-1</li> </ul>	老老介護が増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆老老介護家庭への多様な支援</li> <li>介護サービスを充実するとともに、老老介護の負担(身体的・心理的・財政的)の軽減に向けた支援を行う。</li> </ul>
仕事	の高就労期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「女性が外で働くのは当然だ」という考え方に対する賛成意見が少ない(32.8%、全国47位)</li> <li>○ 高齢女性の貧困率が高い(70歳代以上では、25%以上)(※)</li> <li>○ 高齢女性の就業率が低い(10.9%、全国45位) 参考資料⑥-2</li> <li>○ 高齢になるまでの働き方(正規・非正規など)や賃金の格差が、高齢女性の収入の低さに反映されている(※) 参考資料⑥-3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家事は女性がするものという意識が強い</li> <li>高齢になるまでの働き方等ライフスタイルが貧困に影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆固定的性別役割分担意識の払拭</li> <li>男性の家事への参画が促進されるよう啓発を行う。</li> <li>◆高齢者雇用の促進</li> <li>年齢に関わりなく働ける社会の実現に向け、高齢女性を含めた女性の就業促進、能力開発のための支援を行う。</li> </ul>
	地域活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「女性を積極的に企業の管理職、団体の役職者などに登用すべきだ」という考え方に対する賛成意見が少ない(63.4%、全国43位)</li> <li>○ 自治会長に占める女性の割合は低い(7.6%、全国8位) 参考資料⑥-4</li> <li>○ 県防災会議に占める女性の割合は低い(16.7%、全国8位)</li> <li>○ 文化活動の行動者率は男女とも高いが、特に女性はすべての年代で全国平均を上回る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導的立場につくのは男性という意識が強い</li> <li>・防災分野、自治会等を含め、地域の中で女性の能力・視点の活用が不十分</li> <li>・生きがいのための社会参加が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆固定的役割分担意識の払拭</li> <li>高齢女性がその見識を活かし、社会の重要な一員として活躍できるよう啓発する。</li> <li>◆地域における女性リーダーの育成</li> <li>防災分野、自治会等で高齢者がその見識を活かし、地域における女性リーダーとして活躍できるよう研修等を行う。</li> <li>◆生きがいを生む社会参加の支援</li> <li>高齢女性がその見識を活かし、社会の重要な一員として生きがいをもって活躍できるよう支援する。</li> </ul>

※:全国の場合

⑥-1 主な介護者

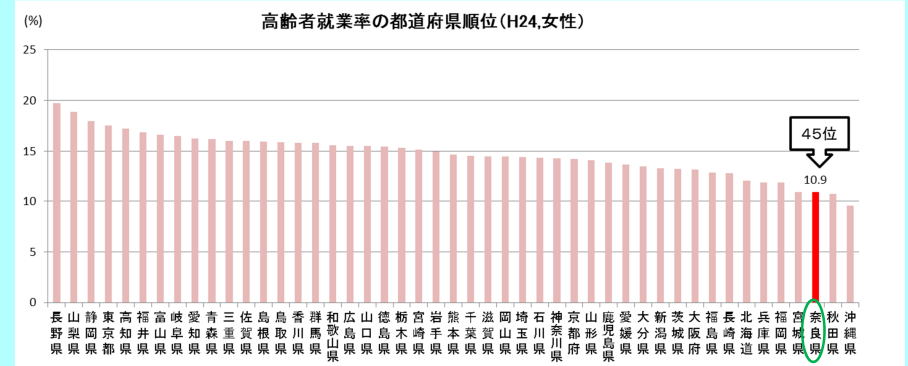
○主な介護者は「高齢者本人の配偶者」(34.0%)が最も多く、老老介護が増加している。



H25高齢者の生活・介護等に関する県民調査(長寿社会課)

⑥-2 女性高齢者の就業率

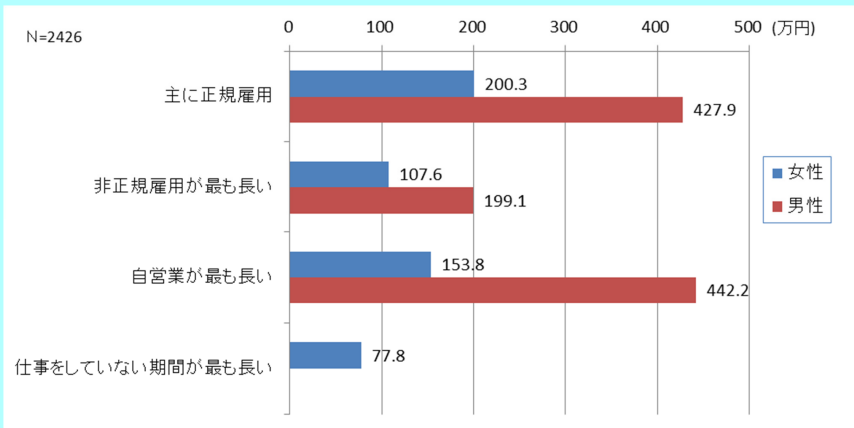
○女性高齢者の就業率が全国45位と低い。(10.9%)



H24就業構造基本調査(総務省)

⑥-3 高齢者の平均年収の格差(これまでの就労経歴別)

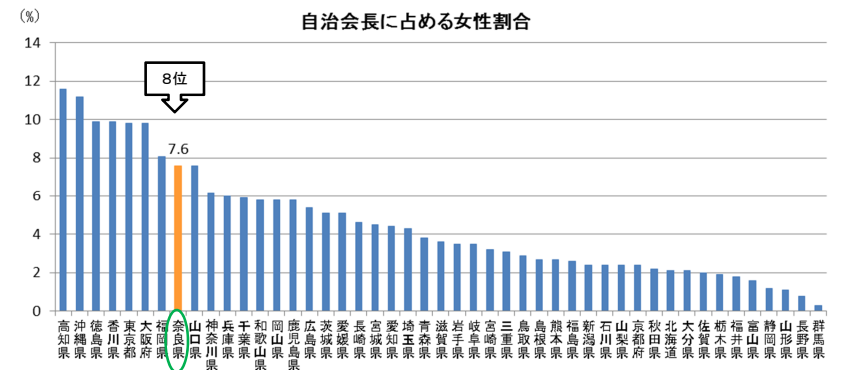
○55歳から74歳の男女の平均年収をこれまでの就労経歴別に見ると、高齢になるまでの働き方や賃金格差が高齢女性の収入の低さに反映されている。



H20高齢男女の自立した生活に関する調査(内閣府)

⑥-4 自治会長に占める女性割合

○自治会長に占める女性割合は全国8位だが、7.6%と低い。



H26地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況(内閣府)